

degree 2 の p 進 Siegel-Eisenstein 級数

京都大学数学教室 D1 竹森 翔*

1 導入

桂田氏と長岡氏は, degree 2, level 1 の Siegel-Eisenstein 級数のある p 進極限が degree 2, level p の genus theta 級数や twist された Eisenstein 級数の線形結合であらわされることを示した ([Kat-Na]). (ここで twist された Eisenstein 級数とは 2 節で定義される Eisenstein 級数に $\begin{pmatrix} 0 & -1 \\ p & 0 \end{pmatrix}$ を作用させたものである.) 水野氏は, [Kat-Na] に現れる Eisenstein 級数の p 進極限を level p の Siegel-Eisenstein 級数を使って表した. その証明には level p の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式が使われる. level が 1 でないときの Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式は最近までは知られていなかったが, 水野氏が [Mi1] で明示公式を得ている. その証明には Jacobi-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式と Maass lift が使われる. また, 軍司氏は, level p の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の Euler 因子 (Siegel series) を直接計算した ([Gu]).

degree 2 のとき, 指標が任意の原始指標のときに Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数を計算し, 桂田氏と長岡氏の結果 (Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限が Siegel 保型形式になるという結果) を level や指標が一般の場合に拡張したのでそれを紹介する (定理 5.2). (ただし, weight は 3 より大きいときのみしか考えていない.) また, degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な保型形式の族が存在するという事も示した (定理 5.1).

2 Siegel 保型形式

g を正の整数とし, $\mathfrak{H}_g = \{z \in \text{Sym}_g(\mathbb{C}) \mid \text{Im}(z) > 0\}$ を degree g の Siegel 上半空間とする. ここで, $x \in \text{Sym}_g(\mathbb{R})$ に対し, $x > 0, x \geq 0$ はそれぞれ, x が正定値, 半正定値であるということの意味する. $\text{Sp}_g(\mathbb{Z})$ を

$$\text{Sp}_g(\mathbb{Z}) = \left\{ \alpha = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \text{GL}_{2g}(\mathbb{Z}) \mid a, b, c, d \in M_g(\mathbb{Z}), {}^t \alpha w \alpha = w \right\},$$

* takemori@math.kyoto-u.ac.jp

(ただし $w = \begin{pmatrix} 0_g & -1_g \\ 1_g & 0_g \end{pmatrix}$) と置き, N を正の整数とすると, $\mathrm{Sp}_g(\mathbb{Z})$ の合同部分群 $\Gamma_0^{(g)}(N)$ を

$$\Gamma_0^{(g)}(N) = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \mathrm{Sp}_g(\mathbb{Z}) \mid c \equiv 0 \pmod{N} \right\}$$

と置く. ψ を mod N の Dirichlet 指標とすると degree g , weight k , 指標 ψ の Siegel 保型形式全体のなす空間を $M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ と置く. すなわち, \mathfrak{H}_g 上の正則関数 f で次を満たすもの全体のなす空間とする.

$$\text{すべての } \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \Gamma_0(N) \text{ に対し, } f((az+b)(cz+d)^{-1}) = \psi(\det(d)) \det(cz+d)^k f(z).$$

ただし $g=1$ の場合は, さらに cusp 条件も加える.

$M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ の任意の元 f は次の様な Fourier 級数展開をもつ.

$$f(z) = \sum_{0 \leq h \in \mathrm{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(h, f) \mathbf{e}(hz).$$

ここで, 正方行列 X に対し $\exp(2\pi i \mathrm{Tr}(X))$ を $\mathbf{e}(X)$ で表している. また, $\mathrm{Sym}_g^*(\mathbb{Z})$ は次のように半整数行列の全体がなす集合である.

$$\mathrm{Sym}_g^*(\mathbb{Z}) = \{ T = (t_{ij}) \in \mathrm{Sym}_g(\mathbb{Q}) \mid 2t_{ij} \in \mathbb{Z}, t_{ii} \in \mathbb{Z} \}.$$

Γ_∞ を

$$\Gamma_\infty = \left\{ \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \in \mathrm{Sym}_g(\mathbb{Z}) \mid c = 0 \right\},$$

と置く.

$k \in \mathbb{Z}$ とし, $\psi(-1) = (-1)^k$ とする, $z = x + iy$, $x, y \in \mathrm{Sym}_g(\mathbb{R})$ とするとき, degree g の Siegel-Eisenstein 級数 $E_{k, \psi}^{(g)}(z)$ を次で定める.

$$E_{k, \psi}^{(g)}(z) = \sum_{\begin{pmatrix} * & * \\ c & d \end{pmatrix} \in \Gamma_\infty \setminus \Gamma_0(N)} \psi^{-1}(\det(d)) \det(cz+d)^{-k}.$$

右辺は $k > g+1$ のとき, 絶対収束し, $M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ の元を定める.

3 degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数の Fourier 係数の明示公式

Siegel-Eisenstein 級数 $E_{k, \psi}^{(g)}(z)$ の Fourier 係数 $a(h, E_{k, \psi}^{(g)}(z))$ は, $N=1$ で g が一般の場合には, 桂田氏によって ([Kat]), N が奇数かつ square-free で, degree が $g=2$ の場合には, 水野氏によって ([Mil]) によって明示的に計算されている. また, degree 2 のときは, 軍司氏によって, $a(h, E_{k, \psi}^{(2)})$ の奇素数 level での Euler 因子 (Siegel series) が明示的に計算されている ([Gu]).

この節では, degree が $g = 2$ のときに, 一般の level で $E_{k,\psi}^{(2)}$ の Fourier 係数の明示公式について述べる. 計算方法は, [Gu] を参考にした.

$h \in \text{Sym}_2^{(*)}(\mathbb{Z})$ かつ $\text{rank } h < 2$ のとき, $uh^t u = \begin{pmatrix} m & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$, $m \geq 0$ となるような $u \in \text{GL}_2(\mathbb{Z})$ が存在する. このとき,

$$a(h, E_{k,\psi}^{(2)}) = a\left(\begin{pmatrix} m & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, E_{k,\psi}^{(2)}\right) = a(m, E_{k,\psi}^{(1)})$$

が成立する. 1つ目の等号は, 保型性から, 2つ目の等号は, Siegel operator Φ について, $\Phi E_{k,\psi}^{(2)} = E_{k,\psi}^{(1)}$ であることからわかる. 1変数の Eisenstein 級数の Fourier 係数は明示的に知られているので, $\text{rank } h = 2$ のときの Fourier 係数 $a(h, E_{k,\psi}^{(2)})$ について述べる.

定理 3.1. ψ を mod N の原始指標とし, $0 < h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ を正定値半整数対称行列とする. $k > 3$ のとき, $a(h, E_{k,\psi}^{(2)})$ について次が成立する.

(1) h が次の条件を満たすとき $a(h, E_{k,\psi}^{(2)}) = 0$ である.

i. $\text{ord}_2(N) = 2$ または, $\text{ord}_2(N) > 3$ のとき,

$$h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z}) \setminus \text{Sym}_2(\mathbb{Z}).$$

ii. $\text{ord}_2(N) = 3$ のとき, $uh^t u$ が次のいずれかの行列と等しくなるような $u \in \text{GL}_2(\mathbb{Z}_2)$ が存在する.

$$\begin{pmatrix} \alpha & 0 \\ 0 & \beta \end{pmatrix}, \quad 2^m \begin{pmatrix} 0 & 1/2 \\ 1/2 & 0 \end{pmatrix} \quad \text{or} \quad 2^m \begin{pmatrix} 1 & 1/2 \\ 1/2 & 1 \end{pmatrix},$$

ここで, $\alpha, \beta \in \mathbb{Z}_2^\times$ であり $m \in \{0, 1\}$ である.

(2) h が (1) の条件を満たさないとき, $a(h, E_{k,\psi}^{(2)})$ は次のようになる.

$$2 \frac{L^{(N)}(2-k, \chi_h \psi)}{L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2)} \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q(h; \psi(q)q^{k-3}) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \mid N}} c_q(h, \psi; q^{k-3}).$$

記号の説明をする.

Dirichlet 指標 χ と自然数 N に対し $L^{(N)}(s, \chi) = \prod_{q \nmid N} (1 - \chi(q)q^{-s})^{-1}$ である. $0 < h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ に対し, $D(h) = -\det(2h)$ と置くと $D_0(h)$ を 2次体 $\mathbb{Q}(\sqrt{D(h)})$ の判別式とし, $f(h)$ を

$$D(h) = D_0(h)f(h)^2$$

となるような正の整数とする. 上の χ_h は 2次体 $\mathbb{Q}(\sqrt{D(h)})$ に付随する導手 $|D_0(h)|$ の 2次指標である. α_1, α を

$$\alpha_1 = \text{ord}_q(\varepsilon(h)), \quad \alpha = \text{ord}_q(f(h)),$$

と定める． $F_q(h; T)$ は次のように定数項 1 で次数が 2α の \mathbb{Z} 係数多項式である．

$$F_q(h; T) = \sum_{i=0}^{\alpha_1} (q^2 T)^i \left\{ \sum_{j=0}^{\alpha-i} (q^3 T^2)^j - \chi_h(p)(qT) \sum_{j=0}^{\alpha-i-1} (q^3 T^2)^j \right\}. \quad (3.1)$$

また， $c_q(h, \psi; T)$ は次で定められる有理式である．

$$c_q(h, \psi; T) = \begin{cases} 1 & \psi_q^2 \neq 1, \\ 1 + q^{-1}(1-q) \frac{1 - \chi_h \bar{\psi}(q) q^{-2} T^{-1}}{(1 - \bar{\psi}^2(q) q^{-4} T^{-2})(1 - \chi_h \psi(q) q T)} (q^3 \psi^2(q) T^2)^{\beta_q - n_q + 1} & \psi_q^2 = 1, \end{cases}$$

ここで ψ_q は導手が q の冪の Dirichlet 指標で， $\psi = \prod_{q|N} \psi_q$ となるようなものであり， n_q と $\beta_q = \beta_q(h)$ は次のように定義される．

$$\begin{aligned} n_q &= \text{ord}_q(\mathfrak{f}(\psi)), \\ 2\beta_q &= 2\beta_q(h) = \text{ord}_q\left(\frac{\mathfrak{f}(\psi)\mathfrak{f}(\psi^2)^2}{\mathfrak{f}(\psi\chi_h)}\right) + \text{ord}_q(\det 2h). \end{aligned}$$

ここで $\mathfrak{f}(\chi)$ は Dirichlet 指標 χ の導手を表す．

4 p -stabilization

Eisenstein 級数を使って p 進 Eisenstein 級数が保型形式になることを示すには， p における Euler 因子が 1 であるような Eisenstein 級数を構成する必要がある．この節では，level p の Hecke 作用素 $U(p)$ を使って， $E_{k,\psi}^{(2)}$ の Fourier 係数の p での Euler 因子を除いたものを構成する．

$f \in M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi)$ を Siegel 保型形式とし，

$$f(z) = \sum_{0 \leq h \in \text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(h, f) \mathbf{e}(hz),$$

を f の Fourier 展開とする．level p の Hecke 作用素 $U(p)$ を次で定義する．

$$(f | U(p))(z) = \sum_{0 \leq h \in \text{Sym}_g^*(\mathbb{Z})} a(ph, f) \mathbf{e}(hz).$$

定義より次が成立する．

$$f \in \begin{cases} M_k(\Gamma_0^{(g)}(pN), \psi) & p \nmid N, \\ M_k(\Gamma_0^{(g)}(N), \psi) & p | N. \end{cases}$$

また， $V(q), W(p)$ を次で定義する．

$$V(q) = \begin{cases} \frac{1 - \bar{\psi}(q)^2 q^{3-2k} U(q)}{1 - \bar{\psi}^2(q) q^{3-2k}} & q \neq 2, \\ \frac{U(q)^2 - \bar{\psi}(q)^2 q^{3-2k} U(q)^3}{1 - \bar{\psi}^2(q) q^{3-2k}} & q = 2, \end{cases}$$

$$W(p) = \frac{(U(p) - \psi(p)p^{k-1})(U(p) - \psi^2(p)p^{2k-3})}{(1 - \psi(p)p^{k-1})(1 - \psi^2(p)p^{2k-3})}.$$

定理 3.1 と $V(q)$, $W(p)$ の定義より次の 2 つの命題が証明できる .

命題 4.1. ψ を mod N の原始指標とし , $h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ を半整数 , 半正定値対称行列とする . また , $k > 3$ を仮定する .

$$E'_{k,\psi} = E_{k,\psi}^{(2)} \mid \prod_{\substack{q|N \\ \psi_q^2 \neq 1}} V(q),$$

と置く . $E'_{k,\psi}$ の Fourier 係数 $a(h, E'_{k,\psi})$ について次が成立する .

(1) rank $h < 2$ のとき,

$$a(h, E'_{k,\psi}) = a(h, E_{k,\psi}^{(2)}).$$

(2) rank $h = 2$ のとき,

$$a(h, E'_{k,\psi}) = 2 \frac{L^{(N)}(2-k, \chi_h \psi)}{L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2)} \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q(h; \psi(q) q^{k-3}).$$

命題 4.2. N を正の整数とし , ψ を mod N の Dirichlet 指標とする . $q | N$ かつ $q \neq p$ であるような素数 q に対して , ψ_q は原始指標であるとし , $\text{ord}_p N > 1$ ならば ψ_p は原始指標であると仮定する . $G_{k,\psi}^{(2)}$ を

$$\begin{cases} \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2) E'_{k,\psi} & \psi_p \text{ が原始指標のとき,} \\ \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2) E'_{k,\xi} \mid W(p) & \psi_p \text{ が mod } p \text{ の自明な指標のとき,} \end{cases}$$

と置く . ここで $\xi = \prod_{\substack{q|N \\ q \neq p}} \psi_q$ である . $h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ とし , $k > 3$ であるとする . このとき , $G_{k,\psi}^{(2)}$ の Fourier 係数 $a(h, G_{k,\psi}^{(2)})$ について次が成立する .

(1) rank $h = 0$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = \frac{1}{2} L(1-k, \psi) L^{(N)}(3-2k, \psi^2).$$

(2) rank $h = 1$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = L^{(N)}(3-2k, \psi^2) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q^{(1)}(\varepsilon(h); \psi(q) q^{k-2}).$$

ここで $F_q^{(1)}(m; T)$ は $1 + qT + \dots + (qT)^{\text{ord}_q(m)}$ であり , $\varepsilon(h)$ は次で定義される .

$$\varepsilon(h) = \max \{ m \in \mathbb{Z}_{\geq 0} \mid m^{-1} h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z}) \}.$$

(3) rank $h = 2$ のとき,

$$a(h, G_{k,\psi}^{(2)}) = L^{(N)}(2-k, \chi_h \psi) \prod_{\substack{q:\text{prime} \\ q \nmid N}} F_q(h; \psi(q) q^{k-3}).$$

注意 4.3. ψ が mod p の自明な指標のとき [Mi-Na] では Jacobi 形式の Hecke 作用素と Maass lift を使って $G_{k,\psi}^{(2)}$ が構成されている .

5 p 進 Siegel-Eisenstein 級数と degree 2 の Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な族

命題 4.2 と p 進 Dirichlet L 関数の性質より, Siegel-Eisenstein 級数からなる p 進解析的な族が存在することや, Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限が Siegel 保型形式であることが証明できる.

N を正の整数とし, χ を mod N の Dirichlet 指標とする. $N = N_0 p^r$ ($r \geq 0, (N_0, p) = 1$) とおく. χ は $\varprojlim_n (\mathbb{Z}/N_0 p^n \mathbb{Z})^\times = (\mathbb{Z}/\mathfrak{p}N_0 \mathbb{Z})^\times \times (1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p)$ の指標とみなせる. ここで \mathfrak{p} は

$$\mathfrak{p} = \begin{cases} p & p \neq 2, \\ 4 & p = 2, \end{cases} \quad (5.1)$$

である. χ を $\chi = \chi_1 \chi_2$ (χ_1, χ_2 はそれぞれ $(\mathbb{Z}/\mathfrak{p}N_0 \mathbb{Z})^\times, (1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p)$ の指標) と分解する. $1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p$ の位相的生成元 u を一つ固定とすると, 多項式 $P(\chi; T)$ を次で定める.

$$P(\chi; T) = \begin{cases} 1 & \chi_1 \neq 1, \\ 1 - \chi_2(u)u(1+T)^{-1} & \chi_1 = 1. \end{cases}$$

これらの記号の準備の下, 次が成立する.

定理 5.1. N を p で割れる正の整数とし, ψ を mod N の原始指標とする. $q \mid N$ かつ $q \neq p$ であるような素数 q に対して, ψ_q は原始指標であるとし, $\text{ord}_p N > 1$ ならば ψ_p は原始指標であると仮定する. 半整数半正定値対称行列 $h \in \text{Sym}_2^*(\mathbb{Z})$ に対し, 次の条件を満たす $\mathbf{a}(h, \psi; T) \in \text{Frac}(\mathbb{Z}_p[\psi][[T]])$ が存在する.

すべての位数が有限の指標 $\varepsilon : 1 + \mathfrak{p}\mathbb{Z}_p \rightarrow \mathbb{C}^\times$ と $k \in \mathbb{Z}_{>3}$ に対し,

$$\mathbf{a}(h, \psi; \varepsilon(u)u^k - 1) = a(h, G_{k, \varepsilon\psi\omega^{-k}}^{(2)}).$$

ここで ω は Teichmüller 指標である. $P(\chi; T)$ を上のものとする. $Q(\psi, T)$ を次で定める.

$$Q(\psi; T) = P(\psi; T)P(\psi^2\omega^{-2}; u^{-2}(1+T)^2 - 1)P'(\psi; u^{-1}(1+T) - 1),$$

ここで $P'(\psi; T)$ は

$$P'(\psi; T) = \begin{cases} 1 & \psi_1^2 \neq \omega^2, \\ 1 - \psi_2(u)u(1+T)^{-1} & \psi_1^2 = \omega^2 \text{ かつ } p \neq 2, \\ (1 - \psi_2(u)u(1+T)^{-1})(1 + \psi_2(u)u(1+T)^{-1}) & \psi_1^2 = \omega^2 \text{ かつ } p = 2. \end{cases}$$

である. このとき $Q(\psi; T)\mathbf{a}(h, \psi; T) \in \mathbb{Z}_p[\psi][[T]]$ が成立する.

Siegel-Eisenstein 級数の p 進極限については次が成立する.

定理 5.2. N を p で割れない正の整数とし, ψ を $\text{mod } N$ の原始指標とする. $\mathfrak{X}, \mathfrak{X}_\psi$ を

$$\begin{aligned}\mathfrak{X} &= \mathbb{Z}/(\varphi(\mathfrak{p})) \times \mathbb{Z}_p, \\ \mathfrak{X}_\psi &= \{(a, s) \in \mathfrak{X} \mid (-1)^a = \psi(-1)\},\end{aligned}$$

とおく. ここで \mathfrak{p} は (5.1) のものであり, φ は Euler の関数である. $\mathbb{Z} \ni m \rightarrow (m \bmod \varphi(\mathfrak{p}), m) \in \mathfrak{X}$ によって $\mathbb{Z} \subset \mathfrak{X}$ とみなす. $(a, k) \in \mathfrak{X}_\psi$ とし, $k \in \mathbb{Z}_{>3}$ を仮定する. \mathbb{R} の位相で $\lim_{m \rightarrow \infty} l_m = +\infty$ であり p 進位相で $\lim_{m \rightarrow \infty} l_m = (a, k) \in \mathfrak{X}_\psi$ となる任意の列 $\{l_m\}_m \subset \mathfrak{X}_\psi$ について $m \rightarrow \infty$ のとき $a(h, G_{l_m, \psi}^{(2)})$ は h に一様に $a(h, G_{k, \psi\omega^{a-k}}^{(2)})$ に p 進的に収束する. ただし, $a = k$ のとき, $\psi\omega^0$ は ψ から誘導される $\text{mod } Np$ の Dirichlet 指標を表す. つまり, $G_{l_m, \psi}^{(2)}$ は $m \rightarrow \infty$ のとき, level $N\mathfrak{p}$, weight k , 指標 $\psi\omega^{a-k}$, degree 2 の Siegel 保型形式に p 進的に収束する.

注意 5.3. p を奇素数とし, $N = 1$, $a = k$ または $a = k + (p - 1)/2$ とする. 定理の最後の主張は, $k \geq 2$ に対し証明されている. ([Kat-Na], [Mi-Na])

参考文献

- [Gu] K. Gunji, On the Siegel Eisenstein series of degree two for low weights, (preprint).
- [Kat] H. Katsurada, An explicit formula for Siegel series, American Journal of Mathematics, Vol.121 (1999), pp.415-452.
- [Kat-Na] H.Katsurada and S.Nagaoka, On some p -adic properties of Siegel-Eisenstein series, J.Number Theory, Vol.104 (2004), pp.100-117.
- [Mi1] Y. Mizuno, An explicit arithmetic formula for the Fourier coefficients of Siegel-Eisenstein series of degree two and square-free odd levels, Mathematische Zeitschrift, Vol.263 (2009), No.4, pp.837-860.
- [Mi2] Y. Mizuno, On p -adic Siegel-Eisenstein series of weight k , Acta Arith, Vol.131 (2008), pp.193-199.
- [Mi-Na] Y. Mizuno and S. Nagaoka, Some congruences for Saito-Kurokawa lifts, Abhandlungen aus dem Mathematischen Seminar der Universitat Hamburg, 2009.